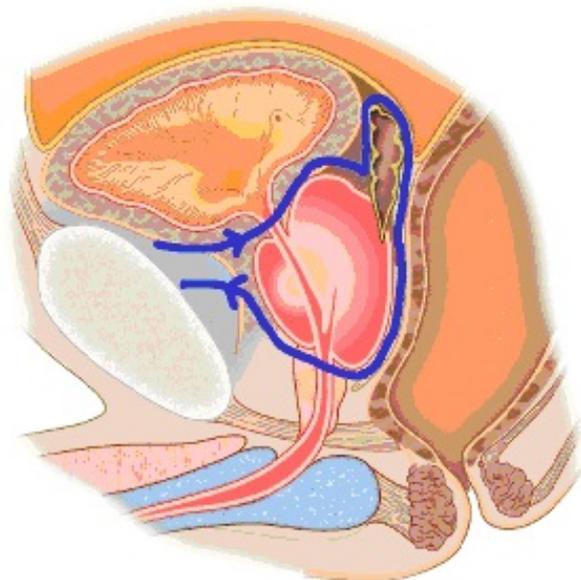
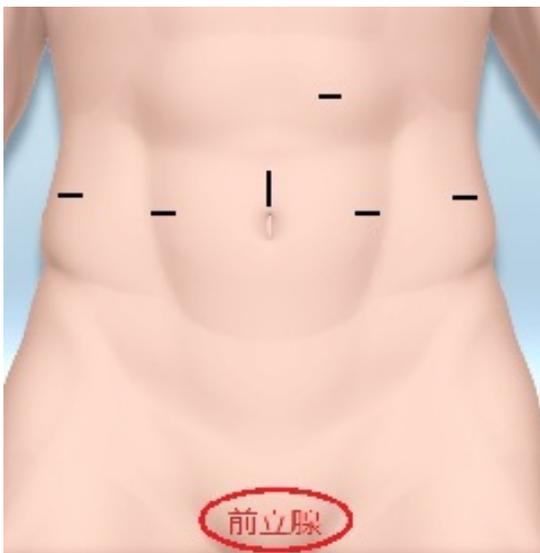


前立腺がんのロボット手術

2012年6月より手術支援ロボット「da Vinci S」（ダ・ヴィンチ）を導入し、前立腺癌の患者さんにダ・ヴィンチを使ったロボット支援手術を行っています。現在は最新バージョンである「da Vinci Xi」を使用しています。腹腔鏡下手術は内視鏡で観察しながら行う手術の事で、お腹に大きな創を作ることなく、小さな穴を5~6箇所開けて直径5~12mmのトロカーと呼ばれる筒状の器具を通して行う、体に負担が少なくてすむ手術です（左図）。内視鏡の拡大視野で行うため、肉眼より細かい手術が可能となっています。ダ・ヴィンチを使った手術では内視鏡画像がさらに3-D画像となり、腹腔鏡で見るとさらに拡大された画像を見ることが可能となりました。また腹腔鏡より自由度の高い鉗子を使用することで、より精緻な手術が可能となりました。

当科では2012年度より前立腺癌に対する手術治療に導入し、すでに500例以上でこのダ・ヴィンチを使用した根治的前立腺全摘術を行っています。

前立腺はクルミ大の大きさで周囲は膀胱、直腸があり、周囲には血管や勃起に関係する神経や尿道括約筋が存在します。（右図）



拡大された3次元の画像と、鉗子は術者の手の動きを縮尺して操作され、また手ぶれ補正もされているため、正確な手術が可能です。特に尿道と膀胱の吻合は細かな操作が必要で、ダ・ヴィンチならではの操作性が活かされます。したがって、癌の根治性の向上はもとより、勃起機能不全や尿失禁などの合併症の軽減が期待されていますが、当院での患者さんのデータでも手術後、早期から尿失禁の回復が見られています。

